

ドリルでもっと

漢字の力を！

子どもを

漢字嫌いにしない

漢字指導で言葉を広げる
書写指導と関連させて

対談

奈良教育大学教授

棚橋尚子先生

長崎大学教授

鈴木慶子先生



今こそ、

「使える漢字の力」

をつけたたい。

奈良教育大学教授 棚橋尚子先生と

長崎大学教授 鈴木慶子先生に、あるべき漢字指導について、

お話しいただきました。

ドリルでの学習に向けて、ぜひお読みください。



細かすぎる字形指導、無意味な 大量の練習で漢字嫌いになれ!

棚橋 最近、研究を行った小学校で、六年生の児童にアンケートをとったら、「あなたは漢字が好きですか」という問いに対し、嫌いという子が結構多いんです。「嫌い」という選択肢にわざわざ「大」をつけていたり、何も聞いていないのに「面倒くさい」と書いてあったりする子もいました。細かすぎる字形指導によって漢字嫌いになっていくこともあるのではと思います。

鈴木 「これじゃないとだめ」という指導のほうが簡単だからでしょうね。そもそも標準の字形があっても唯一の形があるのではなく、字体は骨組みであって概念の中にしかないんです。その概念を紙に実現する手書き文字はそれぞれ違って当たり前なんです。

棚橋 常用漢字表の前書きで許容されていても、指導するときのためにするというような、自分たちの受けてきた教育の経験から逃れられない、ということがあるのかもしれない。

教科書によっても書体が違うので、使っている教科書によって字形が限定されてくるのは、非常に問題だと思います。常用漢字表の前書きではないですが、「骨組みなんだ」ととらえて、「運筆上正しく整えて書く」程度にゆるやかに指導されるのがいいと思います。

鈴木 私の調査でも「面倒くさい、大嫌い」という回

答が五、六年生で多くなったという結果が出ています。

ノートをとることについてのアンケートで、「ノートをとるのが嫌い、面倒くさい」というのが三年生から出てくる。嫌いな子は五、六年生になると教科の嫌いにつながっていきます。一、二年生では、「ノートをとることが好き」。どうしてかというところ、「楽しいから」なんです。ノートは漢字を書くだけではないですけど、面倒くさいとなるのは細かすぎたり、しなくてもいいところに気をつけさせたり、書きたい意欲をそぐような指導とも関係しているのかなと思います。

棚橋 無意味に何回も書きなさいとか、そういう指導ですね。熟語ではなく、同じ漢字をノートに大量に書かせている。書けたと思うところまで書けば、漢字によって書く回数が違っていいと思います。手で覚えなないと漢字は覚えられないから、ある程度書かせる必要はありますが、子どもたちがいやだと思ったときに漢字の力もなくなっていくと思います。

鈴木 練習以外の漢字の指導を受けたことがないというのにもよく聞きますね。「練習しなさい、ドリルやってきなさい、以外の指導はなかった」、「教科書の漢字の単元は先生と一緒に勉強したことがない、自習のときに読むだけだった」とか。



棚橋 一、二年生くらいは先生方も丁寧な指導されますが、三、四年生になると配当字数が多くなり、国語の時数そのものは少なくなつて、さらに子どもたちが漢字を自分で覚えるすべを身につけていると錯覚されるので、ほとんど野放しになつて、評価だけ非常に厳しくやつて、ということになりがちです。

苦手な子を漢字嫌いにさせないために、テストの採点にコースを設けては、とも思います。これは他の媒体にも書きましたが、とめ・はねまできちんと評価するコースと、ゆるやかに見るコースの二つから、テストのときに選べるようにします。達人と基礎、ベテラ

ンとルーキー、などです。基礎コースの子も次は達人コースに挑戦しようと思いがわきます。

大人になつて、とめ・はねが少々きちんとしていないくても何の問題もないですよ。それはそれで書いているということ。

漢字指導は語彙指導 漢字の力が読解力を支える

棚橋 字形の指導はもちろん大事ですが、字形だけ覚えさせるといふのではなく、漢字を中心にして語彙を広げたり、言葉の認識を深めたり、そういう授業がいくつでもできると思います。

そこが非常に弱いまま「読解、読解」と言っているようなところがありますが、実は漢字が読めないから問題が解けない、漢字を読むのが面倒だから正確に意味が理解できなくて、読解できない子ども多いのではないかと思つています。逆説的に言えば漢字を丁寧によればたぶん読解力も上がるだろうと思つてですね。もう少し漢字を丁寧に、字形を丁寧にではなく、いろんな言葉に広がっていくよ、という指導が行われるべきですね。

先生方は「教えたのに書けない」とよくおつしやるけれど、その言葉でしか教えていないんだから、別の熟語で出てきたときに、書けるわけがないんです。ましてや音訓が違う場合は書けない。その熟語に出会っていないから。

本当に漢字を習得させるためには、その漢字の含まれる熟語を多く用意されて、子どもたちに提示していくことが必要です。一個だけ書けてもあまり意味がないんです。漢字を使えるようにすることが大切です。

鈴木 改定常用漢字表では、書けなくていい、読めるだけでいい漢字という考え方が出てきましたが、今の学年別漢字配当表の二〇〇六字は、書いて読めて使えるようにするべき最低限の漢字だと思います。

棚橋 書けるということはそのそりテラシー。自分のものにしていくか、していないかの差が大きいのです。

文字指導と書写指導の 連携を図る

鈴木 大学生も漢字が書けなくなりましたね。一年生の前期は手書きのレポートなんです。漢字であるべきところがひらがなだったり、送り仮名を間違えていたりします。

ひらがなの筆順が違う学生もいます。「な」や「ら」の字など。

棚橋 運筆の妥当性が子どもに伝わっていないんですね。こう書くことも書きにくい、文字というものは運筆のとおりを書いていくと整っていく、そこが伝わっていない。とても不合理な書き方をしています。

鈴木 小学校の二、三年生の時の指導をきちんとやらないからでしょうね。子どもたちが一見するとできている、読めて書けますので改めて識字教育としてやらない。そうするときちんとした字形やそれを組み立てていく順序をどこでも教えてもらわないままになつてしまうのではないのでしょうか。

私は、国語の中で、硬筆書写を文字指導と関連させて一年生から六年生まである程度通したカリキュラムで指導すべき、と考えています。書写指導は漢字指導としっかり融合・連動していかないとけない。

書写の教科書にそつた訓練的な内容に加えて、国語の教科書の中の文字に関係したり、手紙を書いたりといった書写に接近している内容、そういうものから発展する書写の指導もあると思います。訓練的なものだけだと、あきてしまつて、どうしてこんなことするのかわからなくなつてしまつて。国語の教科書から発展する書写指導だけだと、書写の力がきちんとついていかない。両方の流れが必要で、その二つがどこかで出会えるようにしくむということができたらいのかなと思います。



文字の大切さを板書で見せる

鈴木 先日、長崎大学でノート指導を扱ったワークショップを行いました。「ノート検定」などを行い、ノート指導に関する本も発行されている京都女子大学附属小学校の先生に来ていただいて、ワークショップを行ったのですが、すばらしい板書で、速いし、乱れないし、美しい。そのお話ですと、きれいな板書だと子どもたちが落ちて書いて学習する、ということでした。ワークショップを受けた子どもたちも「やっぱり、黒板の字がきれいだといいよね」と言っていましたね。

棚橋 子どもたちは板書の字を見て育ちますから、ああいうふうに字を書けばいいんだと思うし、ある程度書ける先生を尊敬の目で見ますよね。

フィンランドの国語教育の第一人者の先生とお話しする機会があって、フィンランドはPISSA型のメッカなのでそういうことばかりやっているのかと思ったら、文字指導はすごく丁寧なされているんです。「文字は人なり」というけれど、「文字は先生なり」だと。子どもがどんな文字を書いているかを見れば先生がわかるということ言われていました。**鈴木** 興味深いですね。やはりフィンランドのようなどころでも基本は基本できちんとしてるんですね。子どもの字は教えている教師の指導を鏡のように映すと聞いたことがあります。特に低学年はそっくりそのまんま。先生が口で注意するのではなく見せて、それが自然に学習されていくんでしょうね。



長崎大学教授
鈴木慶子先生

すずき けいこ◎専門は教科教育学(国語科書写、芸術科書道)。書育推進協議会専務理事・事務局長を務め、手書きの大切さや効用を「書育」を通して広く伝える活動を実践中。趣味は美術館巡り。



奈良教育大学教授
棚橋尚子先生

たなはし ひさこ◎専門は国語科教育学。著書に「漢字指導の方法」より豊かな漢字学習のために(共編著、光村図書出版株式会社)など。趣味は旅行と歌舞伎鑑賞。最近はどこにも行く時間がないのが悩み。

先生方へのメッセージ



語彙指導を支えるような書写指導をして欲しいと思います。指導要領や教科書で決められたことをただやるのではなく、その枠を飛び越して挑戦していく中で今までなかったような書写指導が見つかると思います。ぜひチャレンジしてください！

漢字指導は語彙指導です。書けるだけで満足しているのではなく、子どもたちにできるだけたくさん漢字、語彙に出会わせる工夫をしていきましょう。また常用漢字表の前書きを見るなど、漢字を理論的に考える指導をしてもらいたいと思います。



ベネッセのくりかえし漢字ドリル

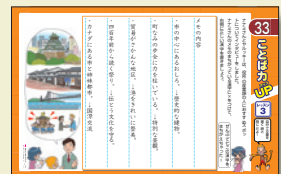
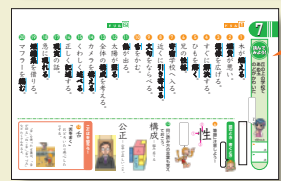
多くの言葉にふれる工夫をしています！

お使いいただいた先生方から「漢字の力を高めることができました」というお声をいただいています！

◎文章で練習でき、漢字の使い方の指導がしやすいです。(宮城県 巨理郡)
◎使用例や熟語が多く掲載され、児童の思考を広げることができました。(鳥取県 米子市)
◎「こぼカUプレッスン」など、言葉として練習するページが役立ちました。(愛知県 稲沢市)

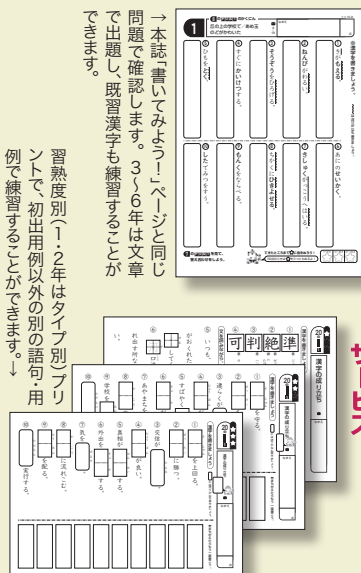
◎切り取り式テスト
◎短文問題になつていて、新出漢字だけでなく、既習の漢字の確認もできました。(群馬県 みどり市)

◎ダウンロードプリントサービス
◎別の使用例が載っていて、漢字の理解が深まりました。(愛媛県 宇和島市)



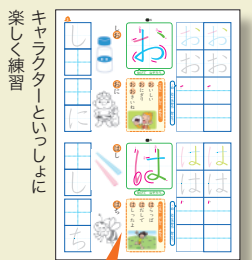
覚えよう！
用例は漢字の意味とセットで掲載。熟語も多く掲載しています。(3～6年)
読んでみよう！
文章で練習します。教科書初出用例以外の読み方も出題。
こぼカUプレッスン
漢字をいろいろな場面言葉として使います。(1・2年は「こぼカ」をつけよう！)

切り取り式テスト
短文問題になつていて、新出漢字だけでなく、既習の漢字の確認もできました。(群馬県 みどり市)

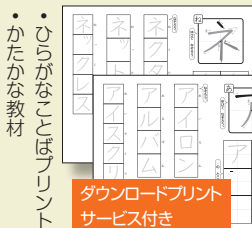


ヤルッキーのひらがな・すずび

◎練習する量が適切でした。ダウンロードは、自分で作ったり、購入したりせずに使えて便利。文字の大きさもよく、早く済んだので、絵に色を塗ることができました。よかったです。(佐賀県 唐津市)



書体がわかりやすくなりました！
書体指導：長崎大学教授 鈴木慶子先生



・ひらがなことはプリントかたかな教材

ご注文・お問い合わせは → 株式会社ベネッセコーポレーション

電話 通話料無 0120-929-667

くわしくはホームページを → ご覧ください。

ベネッセ ヤルッキー で検索してください。
※各種検索サイトでカタカナを入力してください。
<http://www.teacher.ne.jp/d>